

## 近代語から現代語にかけての名詞修飾表現の変化についての一考察 —1項名詞に前接する限定詞を例に—

庵 功雄 (一橋大学国際教育センター) †

### Remarks on the Change in Noun-Modifying Expressions between Early-Modern and Modern Japanese: In Case of Determiners Heading One-Place Nouns

Isao Iori (Hitotsubashi University)

#### 要旨

文脈指示用法で使われる限定詞「この」と「その」に後接する名詞を見ると、「その」の場合は「1項名詞(「~の」を統語的に要求する名詞)」が占める割合が高い。しかし、現代語では「その」は文体的な理由からあまり使われず、「ゼロ」が使われることが多い。一方、近代の文語文では同じ環境で「その」が使われる割合が高い。本発表では、この点を現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)と太陽コーパスを用いて検証した。そして、そうした変化が起こった原因として、近代語では、「そ」が独立語としての用法を持っていることを挙げた。

#### 1. はじめに

動詞の研究に比べ、名詞の研究は大きく立ち後れている。発表者はこれまで、名詞についていくつかの考察を行ってきた(cf. 庵 1995a, 1999, 2007, Iori 2013)が、本発表では、近代語と現代語の相違という観点からこの問題について少し考えてみたい。

#### 2. 2種類の名詞

庵(1995a, 2007, Iori 2013)などで指摘してきているように、日本語の名詞は2種類に大別できる。すなわち、「~の」を義務的に取る名詞と、それを義務的には取らない名詞である。前者を「1項名詞(one-place noun)」、後者を「0項名詞(zero-place noun)」と呼ぶ。両者は次の統語的テストによって区別できる(庵 1995a, 2007, Iori 2013)。

##### (1) 「そうですかテスト」

AとBの対話の始発文で話し手Aが $\phi$ N<sup>1</sup>(Nは名詞)を含む文を発したとき、協調的な聞き手Bが「ああそうですか」(に相当する表現)で答えて談話を閉じられるとき、その名詞Nを「0項名詞」と称し、そのように答えることができず、必ず「Xの?」(Xは疑問詞)という疑問を誘発するとき、そのNを「1項名詞」と称する。1項名詞は統語的に項を必須的にとるのに対し、0項名詞は項を必須的にはとらない。

例えば、次の(2)(3)から「著書」は1項名詞であるのに対し、「本」は0項名詞であることがわかる<sup>2</sup>((3B)で「ああそうですか。」が可能であるのに対し、(3A)ではそれが不可能であることに注意されたい)。

(2) A: 先週、著書を読んだんですよ。

† isaoiori AT courante.plala.or.jp

<sup>1</sup>  $\phi$ はそこに音形を持つ要素がないことを表す。

<sup>2</sup> 「1項名詞-0項名詞」の区別は、西山(2003)の「非飽和名詞-飽和名詞」の区別と似ているが、両者は別の概念である。両者の関係については、庵(2007)を参照されたい。

B : ??ああそうですか。／えっ、だれの？

(3) A : 先週、本を読んだんですよ。

B : ok ああそうですか。／えっ、だれの？

### 3. 名詞の種類と限定詞の使い分け

このように、日本語の名詞は2種類に大別されるが<sup>3</sup>、この違いが文脈指示 (anaphoric) 用法の限定詞 (determiner) 「この」と「その」の使い分けに反映している (庵 1995b, 2007) <sup>4</sup>。

「この」と「その」の文脈指示用法は「指定指示」と「代行指示」に分かれる。「指定指示」は「この／その NP」全体で先行詞 (antecedent) と照応するものであるのに対し、「代行指示」は「こ／そ」の部分だけが先行詞と照応するものである。

(4) この間築地で寿司を食べたんだが、{この寿司／その寿司} はうまかった。(指定指示)

(5) この間築地で寿司を食べたんだが、{この味／その味} はよかった。(代行指示)

ここで、現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) における、「その」と「この」に後接する名詞の分布を見ると次のようになる<sup>5</sup>。

表1 「その」と「この」の頻度 (BCCWJ)

順位	その		この		順位	その		この	
1	事	2727	事	2694	26	辺	393	地	457
2	物	2478	点	1713	27	一つ	391	作品	435
3	時	2476	法律	1670	28	下	381	時代	422
4	中	2437	場合	1592	29	手	375	二人	418
5	後	2417	問題	1443	30	姿	373	町	385
6	他	2043	時	1431	31	結果	372	前	384
7	為	2031	人	1377	32	度	357	方法	370
8	人	1463	本	896	33	内容	336	地域	367
9	日	1288	辺り	810	34	話	326	他	356
10	場	1127	二つ	778	35	年	317	部屋	355
11	上	1063	国	757	36	顔	314	方	352
12	間	832	時期	754	36	目	314	条	344
13	頃	815	日	748	38	先	298	法案	343
14	内	798	辺	704	39	辺り	287	手	343
15	意味	793	男	702	40	夜	272	件	335
16	前	723	中	683	41	一方	264	章	330
17	俣	688	間	670	42	気	258	世界	307
18	点	621	俣	637	43	場合	256	場	302
19	言葉	614	子	634	43	次	256	時点	284
20	男	601	言葉	604	45	家	247	程度	269
21	方	584	事件	572	46	原因	246	店	266

<sup>3</sup> 固有名詞は全て0項名詞である。

<sup>4</sup> ア系統には結束性 (cohesion) に関わる意味の文脈指示用法は存在しないため、「あの」は考察対象に含まれない (cf. 庵 1994, 2007)。

<sup>5</sup> 検索には中納言を用い、長単位検索を行った (キー: 語彙素=其の／此の、キーから1語: 品詞=名詞)。

22	理由	563	種	568	47	国	207	頃	252
23	子	474	家	547	48	通り	206	仕事	244
24	声	440	年	518	49	場所	205	質問	242
25	名	411	話	490	50	数	197	項	242

表 1 において□で囲んだものは 1 項名詞の用法でしか使われないものであり、斜字体にしたものは 1 項名詞としての用法を持ちうるものである。これを見ると明らかなように、「その」は 1 項名詞と結びつきやすい<sup>6</sup>。

#### 4. 現代語と近代語の違い

以上見たように、「その」は 1 項名詞と結びつきやすい。本発表では代行指示について考えるが<sup>7</sup>、そこで考えるべき問題点がある。例えば、(6)では「その」をつけないのが普通である。

(6) 実験は {その / \*この / φ} 結果が重要だ。<sup>8</sup>

つまり、現代語の場合、「この」は多くの場合、統語的に排除されるが<sup>9</sup>、「その」も文体的理由で避けられることが多く、実際には「ゼロ」が最も普通に使われるということである。

ところが、近代の文語文を見ていると、現代語よりも「その」の使用が多いことに気づく。現代語なら「ゼロ」が想定される場合に「その」が使われていることが多いということである。

本発表では、こうした直感を確かめるべく、コーパスを用いて調査を行った。具体的には、現代語としては BCCWJ を、近代語としては太陽コーパスを用いて調査を行った。

#### 5. コーパスによる調査

本節では、今回の調査の結果を報告する。なお、今回の検索対象語は、BCCWJ における「その」の前接頻度上位 100 位の中で、「この」も「ゼロ」も可能であるものを選んだ。その結果、検索対象語は以下の 10 語となった<sup>10</sup>。

(7) 一部、影響、結果、原因、内容、背景、表情、方法、目的、理由 (50 音順)

##### 5.1 現代語の調査

現代語については BCCWJ を用いて検索を行った。まず、可能な限り名詞が連結されるように長単位で検索を行った。また、「ゼロ」の用例を適切に採集するために、キーの指定を行わなかった。中納言における検索条件は以下の通りである。

(8) キー：指定せず、キーから 1 語：品詞＝名詞、キーから 2 語：品詞＝助詞

その後、「キー」の部分が「の」および「連体形」であるものを Excel 2010 のフィルター機

<sup>6</sup> このことは、「その」と「この」を比べた場合、代行指示では「その」が無標であり、指定指示では「この」が無標であることの帰結である (cf. 庵 2002, 2007, 2012)。

<sup>7</sup> 指定指示について詳しくは庵(2007, 2012)を参照されたい。

<sup>8</sup> \*はその文が非文法的であることを表す。

<sup>9</sup> 代行指示において「この」が使えるためには一定の条件を満たす必要がある。これについて詳しくは、庵(1995a, 2007)、Iori (2013)を参照されたい。

<sup>10</sup> これ以外に、「過程、可能性、気持ち、周辺」もあるが、これらはいずれも、太陽コーパスでの用例がないか、非常に少ない(「可能性」以外は用例ゼロ)ため、調査対象外とした。

能で排除し<sup>11</sup>、残ったものを目視で「ゼロ」かそうでないかに振り分けた。  
以上の基準で検索した結果は次の通りである。

表2 「ゼロ、その、この」の分布 (BCCWJ)

	ゼロ		その		この		合計 <sup>12</sup>
	6321	91.86 <sup>13</sup>	442	6.42	118	1.71	
目的	6321	91.86 <sup>13</sup>	442	6.42	118	1.71	6881
理由	2227	55.15	1695	<b>41.98</b>	116	2.87	4038
内容	2514	63.25	1340	<b>33.71</b>	121	3.04	3975
結果	2282	57.52	1430	<b>36.05</b>	255	6.43	3967
影響	3302	87.35	433	11.46	45	1.19	3780
原因	2015	72.80	658	23.77	95	3.43	2768
背景	2187	81.09	399	14.79	111	4.12	2697
方法	1061	45.01	407	17.27	889	<b>37.72</b>	2357
一部	1529	81.20	348	18.48	6	0.32	1883
表情	1095	81.41	242	17.99	8	0.59	1345
合計	24533	<b>72.82</b>	7394	21.95	1764	5.24	33691

## 5.2 近代語の調査

一方、近代語の調査は太陽コーパスを用いて行った。(7)の10語をそれぞれ「ひまわり」で検索し、全例について、「ゼロ、その、この」の用例数を数えた。「ゼロ」の認定基準は現代語の場合と同様である。また、「その」には「その、其の、其、そが、其れが」を含め、「この」には「この、此の、此」を含めた。

表3 「ゼロ、その、この」の分布 (太陽コーパス)

	ゼロ		その		この		合計
	529	53.33	385	38.81	78	7.86	
目的	529	53.33	385	38.81	78	7.86	992
結果	114	12.06	779	<b>82.43</b>	52	5.50	945
方法	93	23.02	156	38.61	155	<b>38.37</b>	404
理由	155	41.44	189	50.53	30	8.02	374
影響	150	50.68	134	45.27	12	4.05	296
原因	94	31.86	166	56.27	35	11.86	295
内容	139	55.60	110	44.00	1	0.40	250
一部	111	49.33	106	47.11	8	3.56	225
背景	49	89.09	5	9.09	1	1.82	55
表情	17	85.00	3	15.00	0	0.00	20
合計	1451	37.63	2033	<b>52.72</b>	372	9.65	3856

<sup>11</sup> つまり、名詞修飾成分が前接したものは「ゼロ」と見なさないということである。

<sup>12</sup> 「ゼロ、その、この」が前接するものの合計であり、「当該の名詞+助詞」の全数ではない。

<sup>13</sup> 同じ名詞における「ゼロ、その、この」それぞれの%を表す。ここで言えば、「6881」に対する「6321」の%を表している。

## 6. 考察

表2、表3からわかるように、現代語と近代語で、1項名詞に前接する「ゼロ」と「その」の分布には差が見られる<sup>14</sup>。

表4 「ゼロ、その、この」の分布 (左: BCCWJ、右: 太陽コーパス)

	ゼロ		その		この		ゼロ		その		この	
目的	6321	91.86	442	6.42	118	1.71	529	53.33	385	38.81	78	7.86
結果	2282	57.52	1430	<b>36.05</b>	255	6.43	114	12.06	779	<b>82.43</b>	52	5.50
方法	1061	45.01	407	17.27	889	<b>37.72</b>	93	23.02	156	38.61	155	<b>38.37</b>
理由	2227	55.15	1695	<b>41.98</b>	116	2.87	155	41.44	189	50.53	30	8.02
影響	3302	87.35	433	11.46	45	1.19	150	50.68	134	45.27	12	4.05
原因	2015	72.80	658	23.77	95	3.43	94	31.86	166	56.27	35	11.86
内容	2514	63.25	1340	<b>33.71</b>	121	3.04	139	55.60	110	44.00	1	0.40
一部	1529	81.20	348	18.48	6	0.32	111	49.33	106	47.11	8	3.56
背景	2187	81.09	399	14.79	111	4.12	49	89.09	5	9.09	1	1.82
表情	1095	81.41	242	17.99	8	0.59	17	85.00	3	15.00	0	0.00
合計	24533	<b>72.82</b>	7394	<b>21.95</b>	1764	<b>5.24</b>	1451	<b>37.63</b>	2033	<b>52.72</b>	372	<b>9.65</b>

このこと理由は複数考えられると思われるが、その1つは「そ」が単独で語として使えるということである。

この点を確かめるべく、太陽コーパスで「そ」が指示詞として使われている例を数えたところ、次のようになり、「が、は、を」以外の助詞との共起例はなかった(「の」を除く)<sup>15</sup>。

表5 「そ」の分布 (太陽コーパス)

が	142
は	353
を	92
合計	587

それぞれの例は次の通りである。

- (9) 隨て露は東洋の外交上に斟酌する所なかるべからず。例へば彼れ朝鮮に野心を逞うし、そが公使等の手を経て朝鮮の王室に畫策し、～  
(『太陽』1895年8号、稲垣満次郎「一大外交」)
- (10) 討幕派はその意外なるに驚きぬ。そは、討幕の密勅を乞ふも、今は幕府を討つべき名なきにくるしめばなり。  
(『太陽』1895年2号、落合直文「しら雪物語」)
- (11) たとへその身吐瀉する事なくとも、傍人若しこれある時は、そを見たる人、必ずや又

<sup>14</sup> 表4の全ての名詞について、BCCWJと太陽コーパスの「ゼロ」と「その」の値に関する2×2のカイ二乗検定を行った結果は次の通りである(「方法」のみ「この」を含む2×3)。

目的:  $\chi^2(1)=1057.17$ 、結果:  $\chi^2(1)=621.79$ 、理由:  $\chi^2(1)=17.16$ 、影響:  $\chi^2(1)=272.96$ 、原因:  $\chi^2(1)=178.58$ 、内容:  $\chi^2(1)=8.65$ 、一部:  $\chi^2(1)=103.45$ 、背景:  $\chi^2(1)=1.11$ 、表情:  $\chi^2(1)=0.004$  (「背景、表情」は有意差なし、その他は全て0.1%水準で有意)

方法:  $\chi^2(2)=117.03$ 、 $p<.001$ で、BCCWJの「ゼロ」と太陽コーパスの「その」が有意に多く、前者の「その」と後者の「ゼロ」は有意に少なく、「この」には有意差がなかった。

<sup>15</sup> 「そが」の「が」は主格ではなく、属格であり、「そが」は「その」と同義で使われている。

胸わろくなりて、嘔吐をせんもはかりがたし。

(『太陽』1895年7号「青山白水と旅行」)

このように、『太陽』の当時はまだ、「そ」が単独で語としての用法を持っており、そのことが、(代行指示の)「その」の使用を容易にしていたと考えられるのである。

## 7. おわりに

本発表では、近代語から現代語にかけての変化の例として、代行指示における限定詞の選択の問題を取り上げた。発表者は先に、大規模コーパスを用いて、近代語と現代語における漢語サ変動詞の自他の変化について考察したが(庵・張 2015)、こうした考察は、言うまでもなく、これらのコーパスが整備されてきたおかげである。改めてこれら諸コーパスの作成に携わられた関係各位に心よりお礼申し上げる。その上で、今後こうした形での実証的な研究が多く行われ、これまでの、現代語のみ、近代語のみの研究では明らかになっていないさまざまな言語事実が解明されることを期待したい。

## 文 献

- 庵 功雄(1994)「結束性の観点から見た文脈指示」『日本学報』13、pp.31-42、大阪大学  
 庵 功雄(1995a)「語彙的意味に基づく結束性について」『現代日本語研究』2、pp.85-102、大阪大学  
 庵 功雄(1995b)「コノとソノ」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(下)』pp.619-631、くろしお出版  
 庵 功雄(1999)「名詞句における助詞の有無と名詞句のステータスの相関についての一考察」『言語文化』35、pp.21-32、一橋大学  
 庵 功雄(2002)「「この」と「その」の文脈指示用法再考」『一橋大学留学生センター紀要』5、pp.5-16、一橋大学  
 庵 功雄(2007)『日本語研究叢書 21 日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版  
 庵 功雄(2012)「指示表現と結束性」澤田治美編『ひつじ意味論講座 6 意味とコンテキスト』pp.183-198、ひつじ書房  
 Iori, Isao (2013) "Remarks on some characteristics of nouns in Japanese", *Hitotsubashi journal of arts and sciences*. 54-1、pp.5-18、一橋大学  
 庵 功雄・張 志剛(2015)「漢語サ変動詞に見る近代語と現代語」『日本語の研究』11-2、pp.86-100.  
 西山佑司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論』ひつじ書房

## 使用したコーパス

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)、太陽コーパス